

# 上越環境科学センター 環境活動レポート 2017



## 目次

ごあいさつ	・・・	p 1
経営方針、品質／環境方針	・・・	p 2
I 事業活動の概要	・・・	p 3
II 環境マネジメントシステムの推進体制	・・・	p 4
III 環境目標と実績	・・・	p 5
IV 主要な環境活動計画	・・・	p 6
V 環境活動の取り組みと評価	・・・	p 8
VI 環境関連法規制の順守状況	・・・	p16

## ごあいさつ

「環境の世紀」と言われる21世紀、地球温暖化対策や循環型社会の形成に向けた取り組みが、企業の社会的責任の最重要な要素の一つに位置付けられております。

上越環境科学センターは、「美しい自然を、うるおいと安らぎを未来の子どもたちに手渡したい」との理念のもと、健康で安心して暮らせる快適な生活環境や自然環境を守るために、環境に係わる分析・調査、アセスメント等を通して積極的に支援することにより環境負荷の少ない持続的発展が可能な社会の構築に役立ちたいとの考えで事業展開を行ってまいりました。

2000年11月にISO14001の環境マネジメントシステムを導入し、地域に向けた環境保全活動では「J-PEA21活動」指針を作成し、普及啓発活動、技術支援、調査研究等を積極的に推進することにより、より大きな成果を得ております。

2016年度は、2001年から継続してきましたエコライフ出前講座が「新潟県環境賞（環境教育・学習部門）」を受賞しました。受講者の年齢に合わせた参加型の6つの講座を延べ2,033回実施し133,564名の方に受講いただいたことが評価されました。

また、ISO規格改訂に伴い、2017年度からは品質マネジメントシステムと統合し、統合マネジメントシステムとして運用を開始しております。

これらISO14001環境マネジメントシステムに係る取り組み成果を「環境活動レポート2017」に取りまとめましたので公表いたします。

このレポートを通じて、当センターの環境保全への取り組みをご理解いただくとともに、忌憚のないご意見をいただければ幸いです。

理事・センター長  
田村 三樹夫

## 地域に向けたJ-PEA21活動

### 1. 普及啓発活動

地域での研修・イベント等に積極的に参加・協力するとともに自主事業の取り組みを推進する。

### 2. 技術支援活動

環境に関する最新情報の収集・提供・フォローアップ等、地域に向けたサービス事業を推進する。

### 3. 調査研究活動

学会・研究会・検討会等への積極的な参加・発表を推進する。

#### J-PEA21とは・・・

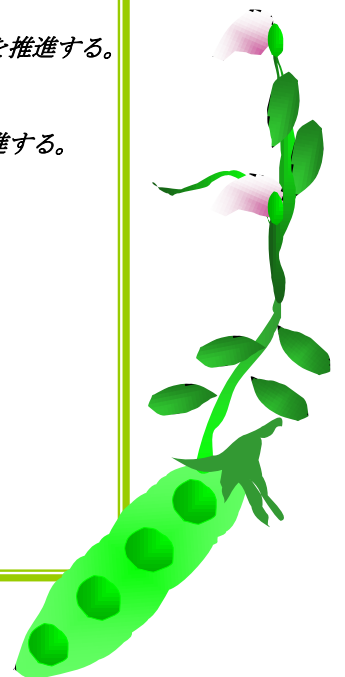
J・・・Joetsu 【上越】

P・・・Preserving 【保全する】

E・・・Environment 【環境】

A・・・Action 【活動】 \*PEA→えんどう豆

21・・・21世紀



## 経営方針（基本理念）

一般財団法人上越環境科学センターは、非営利法人として『社会にとって有用な存在でなければならない』という理念に基づき、地球環境保全と公衆衛生の健全化の見地から、地域社会における自然環境や生活環境の現実を正しく「見つめ」そして「知る」ことを事業活動の基本とし、全ての顧客から信頼していただける測定・分析・調査データ及びサービスを提供することにより、安全で安心できる暮らしの実現に向けて行動する総合検査機関として地域社会の持続的発展に貢献する。

## 品質 / 環境方針

1. 一般財団法人上越環境科学センターは、顧客要求事項、関連する法的要求事項及びセンターが果たすべき社会的要求事項を満たすため、常に品質・技術の向上と環境保護及び人材の育成に努める。
2. 品質/環境管理目標は、事業計画に基づき設定し、部門ごとに品質/環境マネジメントプログラムを作成し、全員参加のもとで活動を展開する。
3. センターが実施している各システムと、本来業務において適切に融合させて運用し、品質/環境マネジメントシステムの有効性を継続的に改善する。
4. この品質/環境方針は、品質/環境マネジメントシステムとともに全部門に浸透させ、その適切性・有効性をマネジメントレビューによって確認し、システムの変更・改善の必要性を評価する。



2017年4月3日  
一般財団法人 上越環境科学センター  
理事センター長 田村 三樹夫

# I 事業活動の概要

## 1 事業者名及び代表者名

一般財団法人 上越環境科学センター

理事長 村山 秀幸      理事 センター長 田村 三樹夫

## 2 所在地

〒942-0063 新潟県上越市下門前 1666 番地

## 3 環境保全関係の責任者及び担当者連絡先

責任者：管理責任者 横田 清士

担当者：ISO 事務局 荻 正人 増田 功一

連絡先：TEL 025-543-7664 (代) FAX 025-543-7882

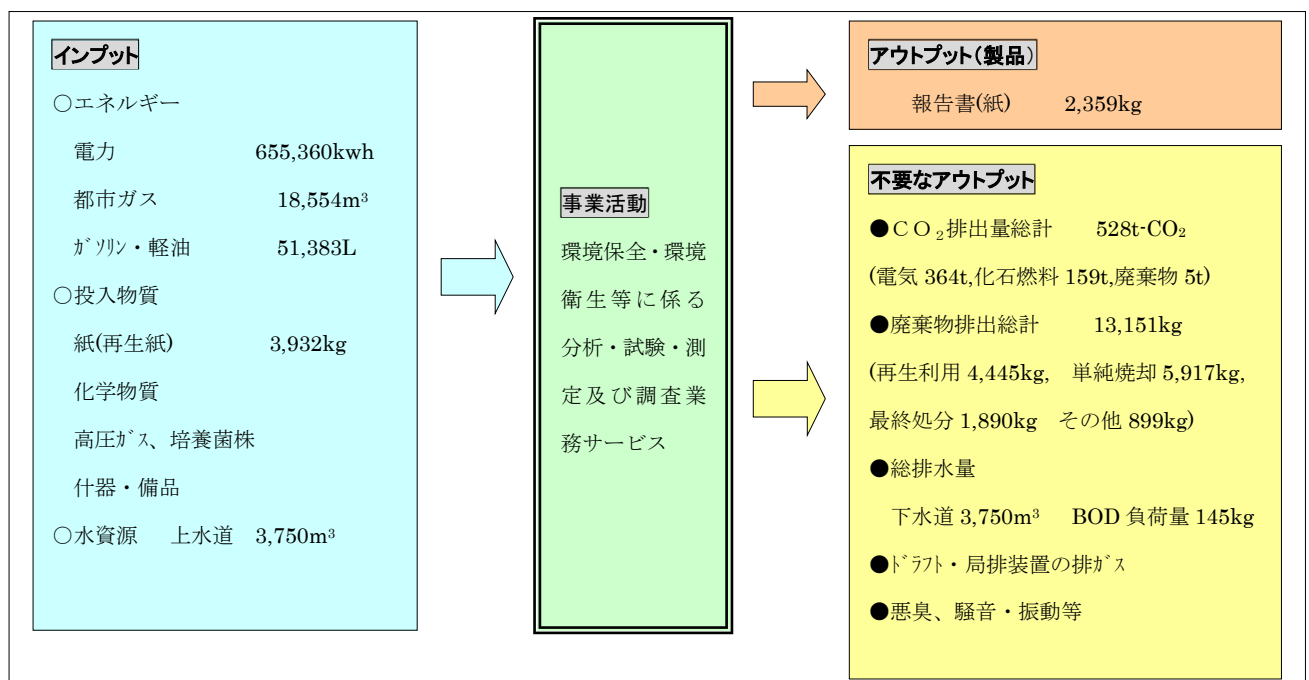
## 4 事業の内容

- ・ 環境保全、環境衛生、安全衛生、保健衛生及び工業分野の生産管理に関する検査・測定・調査業務サービス
- ・ 環境に関する調査、アセスメント、計画策定及びコンサルティング業務サービス

## 5 事業の規模

活動規模 (単位)	2012 年度 (H24 年度)	2013 年度 (H25 年度)	2014 年度 (H26 年度)	2015 年度 (H27 年度)	2016 年度 (H28 年度)
事業額 (百万円)	1,240	1,246	1,287	1,279	1,270
従業員 (人)	122	124	123	122	121
床面積 (m <sup>2</sup> )	3,292	3,292	3,292	3,292	3,292

## 6 事業活動のマテリアルフロー (2016年度)

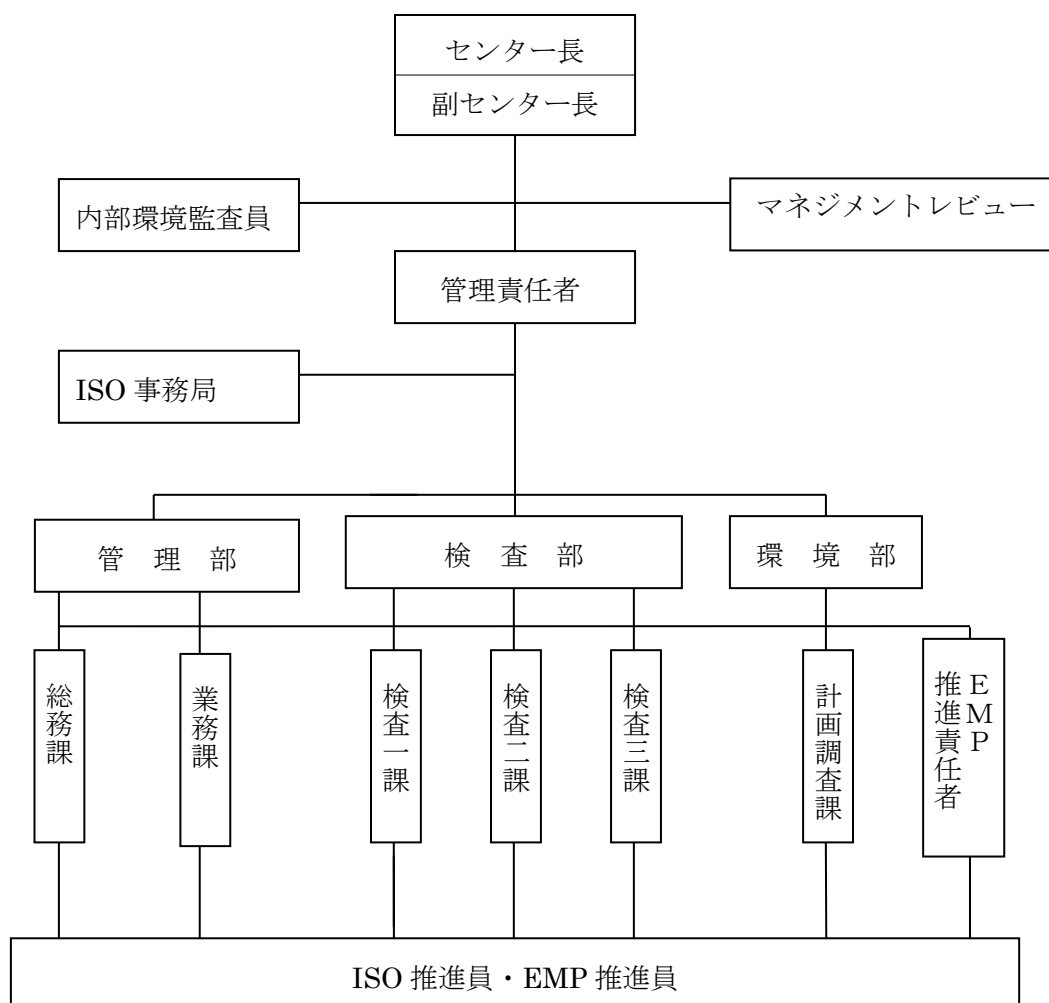


## 7 ISO 認証・認定状況

- 1999年 ISO9002 品質マネジメントシステム認証取得
- 2000年 ISO14001 環境マネジメントシステム認証取得
- 2001年 ISO9001 品質マネジメントシステム認証取得
- 2002年 ISO17025 試験所認定取得(ダイオキシン類)
- 2010年 ISO17025 試験所認定の範囲拡大(環境水、排水中のカドミウム、鉛)
- 2014年 ISO17025 試験所認定の範囲拡大(建材中のアスベスト)

## II 環境マネジメントシステムの推進体制

環境管理活動を推進するための組織図を下記の通り定めています。



### Ⅲ 環境目標と実績

第6ステージ（2016年度～2018年度）の主な環境目的・目標及び2016年度の達成状況を下表に示します。

#### 1. 環境目標及び環境マネジメントシステムの達成状況

	目的	目標（2016年度）	項目	第6ステージ		
				環境目標の達成状況		
				2016年度	2017年度	2018年度
環境保全活動	地域の環境保全活動に参加し、J-PEA21活動を推進する	環境保全活動ポイント10,900の達成	目標値(ポイント)	10,900	11,000	11,300
			実績値(ポイント)	11,830		
			適合性	○		
省エネ・省資源	CO <sub>2</sub> 排出量の排出抑制	CO <sub>2</sub> 排出量の維持 (対象は電気使用量及び都市ガス使用量)	目標値	過去3年の平均値±5%を維持する		
			実績値	2%増加		
			適合性	○		
	業務車両燃料使用量の削減	業務車両燃費の維持 (対象は業務車両40台)	目標値	過去3年の平均値±5%を維持する		
			実績値	5.7%悪化		
			適合性	×		

#### 2 上記の目標の他に、以下の目標を掲げて取り組んでいます。

- ① 各部門の特性を活かし、日常業務の中からテーマを見つけ、目標化して、顧客への働きかけや業務の改善等環境に有意な活動を部門で展開しています。
- ② 大気汚染の防止、水質汚濁の防止、廃棄物、試薬類、高圧ガスボンベ、第一種特定製品の適正管理に関する維持管理目標を掲げて進捗管理を実施しています。

## IV 主要な環境活動計画

第6ステージ 2017年度の環境管理実施計画の内容を下表に示します。

環境目的・目標 (2017年度の目標)		環境マネジメントプログラム	
		達成のための方法(主な実行手段)	実施責任者
<b>&lt;目的&gt;</b> 1. 地域の環境保全活動に参加し、それを支援するJ-PEA21活動を推進する。		環境保全活動として普及啓発、技術支援及び調査研究を実施する。	部門長
<b>&lt;目標&gt;</b> 11100ポイントを達成する。		①講演会、講座、説明会等の開催 ・公開講座の開催(1回/年以上) ・出前講座の開催(目標値に含まず、実施回数及び参加者数は別に管理する) ・EA21普及啓発セミナー等の開催 ②センター見学案内、研修生・実習生の受け入れ ③ホームページの電子メールからの質問対応 ④JECニュースの発行(年3回)、環境活動レポート類の作成及び公表 ⑤EA21地域事務局として認証登録(新規・継続)の実施	J-PEA21責任者 計画調査課長 EA21地域事務局 総務課長 業務課長 業務課長・事務局 EA21地域事務局
		⑥講師、指導者等の派遣、各種委員会委員の委嘱を受けて参加 ⑦環境フェア等への展示器材等の貸出、出展協力、ブースの開設 ⑧環境啓発用器材の貸出し	部門長 部門長 部門長
		⑨環境講演会、イベント、技術研修会、調査研究学会等への参加 基礎教育及び環境講話への参加 ⑩野外清掃等の環境美化活動への参加(ボランティア申告含む) ・1回/月センターの野外清掃を行う ・近隣のカニ池公園の清掃を1回/年行う ⑪職員提案の積極的な実施 ⑫ノーマイカー運動を推進する	部門長 管理責任者 部門長 部門長 部門長
		⑬市町村、企業等への環境、衛生に関する技術指導・支援 ⑭情報共有リストを活用し、顧客サービスを推進する ⑮ISO14001の認定取得の技術支援、その他テクニカルサービス事項等	部門長 部門長 部門長
		⑯上越地区視聴覚ライブラリーへの教材支援、環境保全活動への資金面の支援	総務課長
		⑰新規業務、新規顧客からの業務受託による技術提供	部門長
		⑱環境保全・改善に関する独自の調査研究 ・テーマの検討、社内外への発表・投稿(1テーマ/課:検査部、環境部) ・公益研究・調査「上越自然環境データベースの整備及び活用」	部門長 計画調査課長
<b>&lt;目的・目標&gt;</b> 2 センターの事業運営方針から紐付けされたテーマで、業務の拡大、顧客満足度の向上、環境影響評価のプラス面の伸張等に向けた取り組みを推進する。		①各課1題実施する	部門長

環境目的・目標 (2017年度の目標)	環境マネジメントプログラム	
	達成のための方法(主な実行手段)	実施責任者
<p>&lt;目的・目標&gt; 3 地球温暖化防止対策として、温室効果ガス排出量を抑制する。そのためエネルギーの使用量の節減、効率的な運用及び第一種特定製品の適正管理を実施する。</p> <p>(1)新建屋建築まで、CO2排出量は、過去3年間の平均値±5%を維持する。(対象は電気使用量及び都市ガス使用量)</p>	<p>①空調設備の使用時間を短縮する</p> <p>②適正温度 夏28℃、冬20℃を徹底する</p> <p>③空調設備のフィルター清掃を徹底する</p> <p>④不要照明・不在時の消灯、自然光の活用による消灯を徹底する</p> <p>⑤省エネパトロールを実施する</p> <p>⑥夜間・未使用時の電気設備の電源カットを徹底する(待機電力削減)</p> <p>⑦室単位又は課若しくは作業グループ単位で毎週定時退所日を決めて節電に努める</p> <p>⑧電力のピークカット対策としてデマンド目標値を設定し、運用する</p> <p>⑨連休等においては、電力消費量が多い機器を計画的に停止する</p> <p>⑩新建屋移転後はデータ取得を行う(電気、都市ガス、デマンド)</p> <p>⑪新建屋建築に伴う各種見直しを実施する</p>	<p>部門長</p> <p>部門長</p> <p>部門長</p> <p>部門長</p> <p>電気関連責任者</p> <p>部門長</p> <p>部門長</p> <p>電気関連責任者</p> <p>部門長</p> <p>電気関連責任者</p> <p>電気関連責任者</p>
<p>(2)業務車両の燃費は過去3年間の平均値±5%を維持する。</p>	<p>①自動車更新時における低燃費車への切替を検討する。</p> <p>②エコ運転5則を励行する。</p> <p>③公共交通機関の利用を推奨する。</p> <p>④低燃費に係る車両メンテナンスを実施する。(随時)</p>	<p>部門長</p> <p>部門長</p> <p>部門長</p> <p>部門長</p>
<p>(3)フロン排出抑制法を順守し、第一種特定製品を適正管理する。</p>	<p>①第一種特定製品の簡易点検(1回/3月)を実施する</p> <p>②定格出力7.5kw以上の第一種特定製品の定期点検(1回/1年・3年)を実施する</p> <p>③新建屋建築に伴う各種見直しを実施する</p> <p>④AB棟解体に伴う第一種特定製品の廃棄を適切に実施する</p>	<p>電気関連責任者</p> <p>電気関連責任者</p> <p>電気関連責任者</p> <p>電気関連責任者</p>
<p>&lt;目的・目標&gt; 4 廃棄物の処理及び清掃に関する法律を順守し、排出量の適正管理をする。</p>	<p>①廃棄物の最終保管場所への移動量を集計する(1回/月)</p> <p>②マニフェストによる産業廃棄物の委託状況を把握する(1回/年)</p> <p>③ヘルスマーター、廃棄物の分別状況、最終保管場所の点検を行う(1回/月)</p> <p>④産業廃棄物管理票交付等状況報告書の提出</p> <p>⑤産廃、特管産廃の最終処分実績報告書の提出</p> <p>⑥ポリ塩化ビフェニル廃棄物の保管及び処分状況等届出書の提出</p> <p>⑦新建屋建築に伴う各種見直しを実施する</p>	<p>部門長</p> <p>廃棄物関連責任者</p> <p>廃棄物関連責任者</p> <p>廃棄物関連責任者</p> <p>廃棄物関連責任者</p> <p>廃棄物関連責任者</p> <p>廃棄物関連責任者</p>
<p>&lt;目的・目標&gt; 5 文具・事務用品について、グリーン購入を推進する。</p>	<p>①グリーン購入指針に基づき商品を購入する</p> <p>②コピー用紙の使用(購入)量を把握する</p>	<p>総務課長</p> <p>総務課長</p>
<p>&lt;目的・目標&gt; 6 新建屋の建築に係る環境配慮を検討・実施する。</p>	<p>①建築工事に対する環境配慮を実施する(排水、騒音・振動、悪臭、廃棄物)</p>	<p>管理責任者 新建屋プロジェクト</p>



## V 環境活動の取り組みと評価 (第6ステージ 2016年度の取組)

### 1 地域社会における環境保全活動

当センターが制定した環境保全活動指針である「J-PEA21 活動」(p1) に添って活動を展開し、様々な成果を上げております。

#### 1-1 普及啓発活動等の実施

- ①
- ② エコライフ出前講座の開催

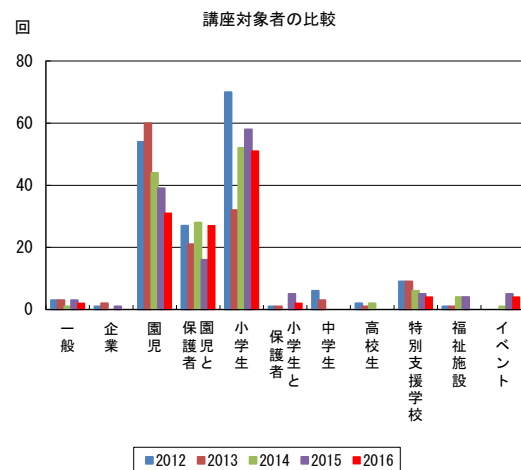
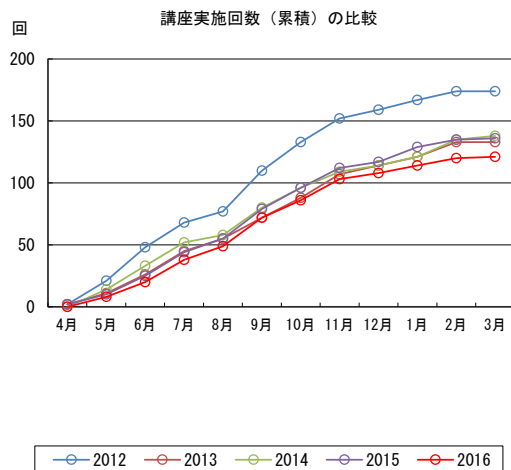
ごみ、省エネ、水の循環に関する講座を園児、学校、大人向けに分かりやすく無料で提供しています。2016年度は121回の講座を実施し、7,200名の参加を得ました。



講座の風景

#### 《講座メニュー》

【ごみ(分別)編】	ごみ問題の現状と減量・分別の必要性を説明し、分別ゲームで各自自治体の分別方法とリサイクル方法について学びます。
【ごみ(減量)編】	ごみの減量に向けて、環境に配慮した生活を送るために私達ができることを提案します。
【省エネ編】	今と昔のエネルギー消費量の違いや省エネの必要性(地球温暖化、資源の枯渇)を説明し、クイズを通して日常生活で出来る省エネを考えます。
【水編】	一日一人あたりの水使用量と、浄水場・下水道の仕組みを説明し、川や海の汚染に触れ水の大切さや生活排水対策を考えます。
【地球温暖化編】	地球温暖化の仕組みや影響について説明し、生活とのつながりや地球温暖化を防止するために日常生活でどのようなことができるのかを考えます。
【食べ物】 (園児向けのみ)	食事前の手洗いの励行、バランスの良い食事、食品廃棄物の削減、食品の衛生管理について人形劇とパネルシアター形式で楽しく学びます。



- ③ 公開講座：テーマ「PCB 廃棄物処理に関する最近の動向」、「大気汚染防止法の改正について」、「飲料水・食品に関わる食中毒について」を開催し、39 団体 52 名の参加を得ました。
- ④ センター見学者、職場体験、研修生の受入：8 団体 25 名を受け入れました。
- ⑤ 講師派遣：各種講習会や研修会に 35 回講師などを派遣しました。
- ⑥ 22 団体から各種委員会委員や環境モニター委嘱を受けて、参加しました。
- ⑦ 上越市及び糸魚川市の環境フェアへ出展しました。
- ⑧ JEC ニュースを年 3 回発行し、関係事業所へ技術情報として発信しました。
- ⑨ 環境活動レポートを作成し、公表しました。
- ⑩ エフエム上越に環境保全啓発広告を提供しました。
- ⑪ 上越地区広域視聴覚ライブラリー及び上越市理科教育センターへ環境教育用教材の寄贈を行いました。
- ⑫ 地域の環境保全と野外活動等の推進の観点から、マラソン大会やスキー大会の支援を行いました。
- ⑬ 環境美化活動として、近隣のカニ池公園の草刈りや職場構内の美化清掃を実施しました。

## 1-2 エコアクション 21 地域事務局としての活動

当センターは 2005 年 3 月に(財)地球環境戦略研究機関 (IGES) からエコアクション 21 地域事務局の認定を受けて業務を開始しました。

認証・登録件数は 2017 年 3 月末現在で 76 件となりました。

2005 年度から実施している自治体イニシアティブ・プログラムとしては参加事業者数が足りず、2016 年度は認証取得支援講座を妙高市 (2 社参加) と柏崎市 (2 社参加) で開催しました。



運営委員会

### 当地域事務局の URL

下記の URL で当地域事務局の情報を公開しております。

[http://www.jo-kan.or.jp/jigyosyo\\_intro/EA21/EA21\\_index.html](http://www.jo-kan.or.jp/jigyosyo_intro/EA21/EA21_index.html)

### 1-3 技術支援活動の実施

- ① 顧客企業や市町村から環境、衛生に関する技術指導や相談を受け、多種多様な事項について専門スタッフが技術支援を行いました。
- ② ISO14001 や EA21 の認証取得の技術支援を行いました。

### 1-4 調査研究活動の実施

#### (1) 上越地域自然環境データベースの整備及び活用

2007 年度から上越地域の動植物の分布状況を中心とした自然環境データベースの整備に取り組み、2016 年度は上越教育大学との共同研究を継続し、上越市、妙高市、糸魚川市のご協力により上越地域自然環境データベース運営委員会でデータ提供、入力方法の改善を行いました。

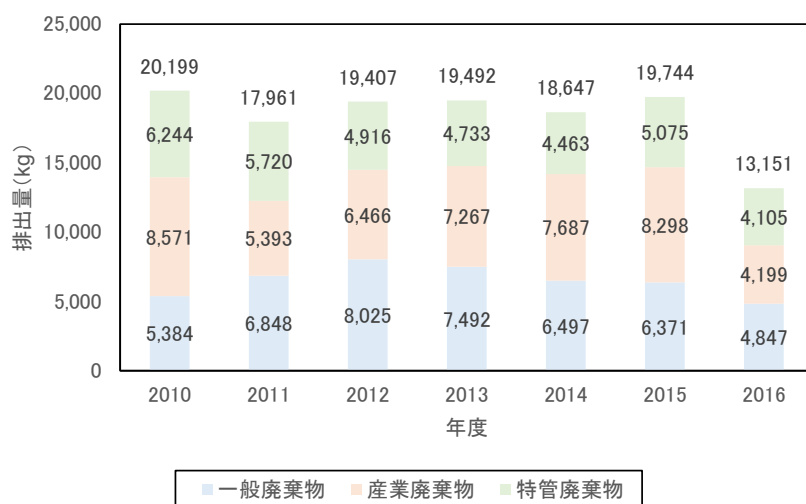
#### (2) 学会等へ研究成果発表 (2016 年度)

- ・第 30 回日本分析化学会関東支部新潟地区部会研究発表会 (2016.9.30 新潟市)  
題目「ダイオキシン類の抽出における問題点と過熱ソックスレー抽出法」
- ・全国給水衛生検査協会簡易専用水道検査技術研究発表会 (2016.12.16 東京都)  
題目「簡易専用水道施設における水質の変化について」
- ・Limnology and Oceanography (2016.5 共同研究 投稿)  
題目「Spatial variations in zooplankton community structure between two open bays in the southern Japan Sea」
- ・2016 年度第日本環境アセスメント学会発表 (2016.9.9 中央大学、共同発表)  
題名「生物多様性オフセット導入に向けた調査研究～ステークホルダーへのアンケート結果～ その 2」
- ・第 55 回(公社)日本地すべり学会研究発表 (2016.8.24 高知市)  
題目「電位差による地下水排除施設集水管の閉塞防止方法について」

## 2 廃棄物排出量の削減とリサイクル

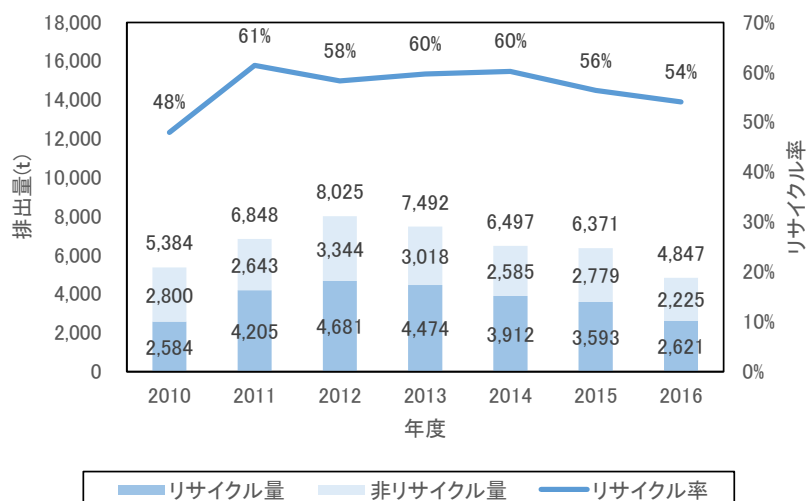
### 2-1 廃棄物の総排出量とその内訳

- ・ 2016年度の廃棄物の総排出量は、全体で13,151kg排出されています。
- ・ 内訳は一般廃棄物 4,847kg、産業廃棄物 4,199kg、特別管理産業廃棄物 4,105kg、となっています。
- ・ 特別産業廃棄物は分析に伴う廃液が多くを占めるため、各部門での廃棄物削減の取組として、できる限り再利用につとめています。



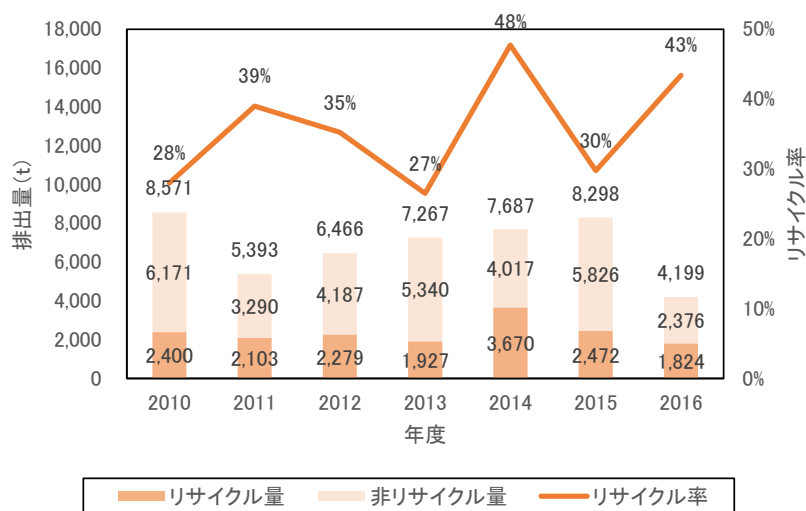
### 2-2 一般廃棄物の分別リサイクル

- ・ 2016年度の一般廃棄物の総排出量は4,847kgで、その内の2,621kg(54%)を資源ごみとして分別・リサイクルしています。
- ・ 一般廃棄物の内訳は、可燃ごみが46%、リサイクルされる資源ごみが54%でした。
- ・ 当センターの製品は分析結果等を記載した報告書が主であり、大量のコピー用紙を使用します。このため、印刷ミスなどの不要なコピー用紙は裏紙として有効利用(所内での利用に限定)した後に機密文書類として、封筒などは再生可能な紙類として、ともに外部委託により固形燃料化することで、可能な限り有効活用しています。



### 2-3 産業廃棄物の分別回収と再生使用

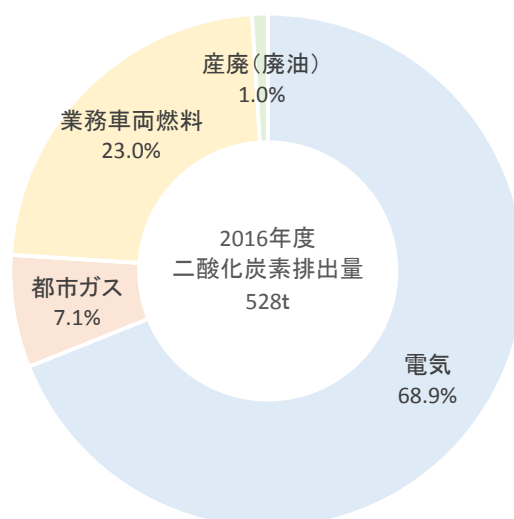
- ・ 2016年度の産業廃棄物と特別管理産業廃棄物の排出量は8,304kgでした。
- ・ 産業廃棄物（特管産廃を除く）の排出量は4,199kg、リサイクル率は43%でした。
- ・ 検査分析部門では、廃油・廃酸・重金属スラッジ及び廃アルカリの特別管理産業廃棄物は法令に基づいて適正管理を徹底しています。
- ・ さらに次の取り組みを実施することで廃棄物の削減につとめています。
  - ① ダイオキシン分析に用いられる可燃性溶剤と塩素系溶剤とを分別回収し、トルエン、アセトン、ジクロロメタン混入排水を原料（有価物）として再利用しています。
  - ② ダイオキシン分析方法の改善として、分析の前処理方法を有機溶剤抽出方法から固相フィルターを使用する方法に変更することにより廃棄物の削減を行っています。
  - ③ 使用済みの試薬瓶をメーカーに返却、再利用することによりガラス製の産業廃棄物を大幅に排出削減しています。
  - ④ 廃棄物の4R (Refuse, Reduce, Reuse, Recycle)に基づき、各部門で取り組みを実施しています。



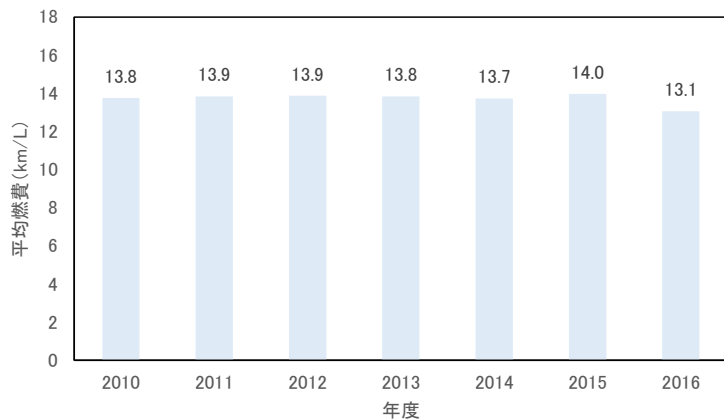
### 3 省エネルギー・省資源活動

#### 3-1 二酸化炭素排出量の削減

- ・ 2016年度の事業活動に伴い使用したエネルギー（電力・化石燃料）の使用量と、廃棄物（廃油）の焼却量から算出した二酸化炭素排出量は 528t・CO<sub>2</sub>でした。
- ・ 寄与が大きい電気、業務車両燃料（ガソリン、軽油）、都市ガスで全体の 99%を占めています。
- ・ 2011年3月11日に発生した東日本大震災に伴う電力不足を回避するため、電力使用量削減に向けてさまざまな取り組み（試験室以外の空調設定温度の夏 28℃、冬 20℃の徹底、ダイオキシン類分析棟の空調や局所排気装置のインバーター化、省電力機器への変更、不要照明の消灯、未使用機器の停止など）を強化・徹底した結果、2010年度から約 10%の大幅な削減を達成しました。
- ・ 2012年度以降も取り組みを継続しており、2010年度と比較して 5%程度の削減を維持しています。



- ・ 業務車両の燃費は横ばい傾向になっていますが、今後も業務車両のエコ運転と公共交通機関の利用を徹底するとともに、低燃費車への入れ替えを積極的に進めます。
- ・ 業務用車両 40 台の内、低燃費車の導入状況はハイブリッド車 4 台となっています。



#### 【エコ運転 5 則】

1. アイドリングストップの励行
2. 経済速度で走行する
3. 「急」がつく作動はしない
4. 無駄な荷物は積まない
5. エアコンは控えめに

### 3-2 グリーン購入の推進

- ・ センター全体で機能、価格を考慮した上で、グリーン製品の優先購入に取り組んでいます。
- ・ グリーン購入ネットワークへの加入などによる情報収集を行うと共にグリーン調達基準を定めて徹底化を図り、2006 年度実績で文具・事務用品のグリーン調達率は 86.6%まで向上したことから、2007 年度からは維持管理目標としてグリーン調達を継続しています。

## 4 環境マネジメントシステム体制の定着・強化

### 4-1 環境方針、計画及び運用面の改善

- ・ ISO14001 のサーベイランス審査 (2016.9) で、適切に維持され有効に機能していると評価されました。

### 4-2 環境関連法規の順守

- ・ 環境関連法規の変更及び新たに登録等が必要なものはありません。

### 4-3 苦情の状況、職員提案

- ・ 外部苦情はありません。
- ・ 職員提案：2016 年度 8 件

#### 4-4 教育訓練、緊急事態対応訓練の実施

##### ① 教育訓練

- ・交通安全講話

テーマ：「事例から学ぶ安全運転」

講師：上越警察署交通課長 榎 三弘 様

- ・安全大会

専門点検報告、安全活動発表

- ・外部研修

2016年度の外部研修参加者 131名（県内 43名、県外 88名）

##### ② 有資格者数

- ・職員の自己啓発に教育訓練の目標として資格取得を奨励し、2016年度は環境計量士 1名、作業環境測定士 2名、公害防止管理者 1名が新たに資格を取得しました。

- ・2017年3月31日現在の主な有資格者数は次表のとおりです。

資格名	人数	資格名	人数
工学博士	1	建築物環境衛生管理技術者	13
技術士（環境部門）	5	簡易専用水道施設認定検査員	8
技術士（建設部門）	1	衛生管理者	15
技術士（衛生工学部門）	1	測量士補	5
労働安全コンサルタント	2	下水道技術認定（第3種）	1
労働衛生コンサルタント	3	臭気判定士	26
環境計量士	31	森林インストラクター	2
一般計量士	8	環境カウンセラー	7
公害防止管理者	54	環境マネジメントシステム審査員補	3
作業環境測定士	27	品質マネジメントシステム審査員補	1
臨床検査技師	4	ビオトープ管理士（1級）	1
放射線取扱主任者	2	エコアクション2.1審査人	4
浄化槽検査員	16	環境アセスメント士(生活環境部門)	1
浄化槽管理士	13	生物分類技能検定	7
土壌汚染調査技術管理者	2	X線作業主任者	4
建築物石綿含有建材調査者	2		



## VI 環境関連法規制の順守状況

### 1 当センターに適用となる主な環境関連法規

センターの定常業務に適用される法令、条例の主なものは次のような事項が上げられ、すべて違反なく、法規制を順守すると共に、法令基準以上の自主管理基準を設定して管理しています。

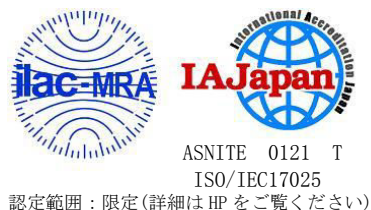
**法令**：環境基本法、下水道法、水質汚濁防止法、騒音規制法、振動規制法、廃棄物処理法  
容器包装リサイクル法、PCB 特別措置法、PRTR 法、フロン排出抑制法、悪臭防止法、労働安全衛生法、毒劇物取締法、高圧ガス保安法、消防法

**条例**：上越市下水道条例、新潟県生活環境の保全等に関する条例、上越地域消防事務組合  
火災予防条例、上越市環境基本条例

**自主管理基準**：特定事業場からの下水の排除基準項目に自主管理基準の設定

### 2 順法の評価

当センターの環境関連法規への違反はありません。また、関係当局からの違反等の指摘は ISO14001 認証取得以降 10 年以上に渡り無く、訴訟もありません。



【お問い合わせ先】

一般財団法人上越環境科学センター／ISO 事務局  
 新潟県上越市下門前 1666 番地  
 TEL 025-543-7664 FAX 025-543-7882  
 URL <http://www.jo-kan.or.jp>

2017年7月発行